



豊岡市立歴史博物館 ニュース

—但馬国府・国分寺館—

2019.4

第55号

豊岡市立歴史博物館
—但馬国府・国分寺館—

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町柿布 808
TEL 0796-42-6111 fax 0796-42-6112
http://www3.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/



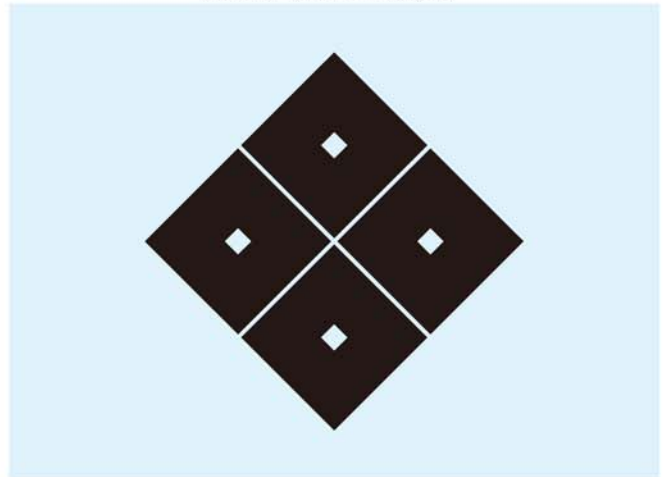
仙石秀久所用鞍



京極家旧蔵阿古陀形筋兜



永樂錢 (仙石家定紋)



隅立て四つ目結 (京極家定紋)

第46回企画展

Come on! 家紋 World

家紋は古くから家系、血統、家柄、地位を表すために用いられ、その数は20,000種以上存在すると言われていました。現在では冠婚葬祭の際に紋入りの着物を着る人も少なくなり、家紋を目にする機会、意識する機会が減ってきています。しかし、墓石にはその家の紋が彫られていることが多く、自治体や企業のロゴマークには家紋をデザイン化したものも多く見られます。また、神社仏閣を訪れた際に、それぞれの神社や寺に固有の神紋・寺紋を見かけることもあるでしょう。このように家紋は意外と身近なところに存

在し、今も私たちの生活と関わりをもっているのです。

今回の展示では、豊岡の地を治めていた大名家の家紋があしらわれた資料や、デザイン性に富んだ数多くの紋を紹介し、家紋がどのように発展し日本の文化として根付いたのかを分かりやすく解説します。

- 会 期 2019年4月26日(金)～9月3日(火)
- 展示協力 出石史料館 佐藤 誠氏 仙石宗久氏 田中豊茂氏

家紋の起源

家紋は自然発生的に生まれたもので、成立した時期を特定することは難しいですが、その原形は縄文土器や弥生時代の銅鐸に施された模様にも遡るさまざまな文様にあると考えられます。平安時代末期になると、公家が他の家と区別するために牛車などに独自の文様をつけ始めます。これが、現在の家紋の元になったという説が有力です。

鎌倉時代になり武家が台頭し始めると、戦場で自らの働きを証明するため、また自己顕示欲のために各家が考案した独自の図柄を旗、^{まんまく}幔幕にあしらうようになりました。戦国時代に入ると武家は同族同士で合戦になることが多くなり、敵味方の識別のため家紋の種類は急激に増えました。

このように家紋は公家社会で生まれ、武家社会の中で発展していったとみることができます。

武家の家紋

源平合戦の際、源氏は白、平氏は赤の旗で、両軍とも無地のものを掲げていました。平氏が滅亡したあと、白の無地旗を源氏宗家のみの印と考えていた頼朝は、他の氏族に「源」姓を使うことを禁じ、宗家と区別するために紋を描いた旗を使うように命じました。この旗に描かれた紋が武家紋のはじまりとされ、自他を区別するものとして家紋が広まっていくきっかけとなりました。

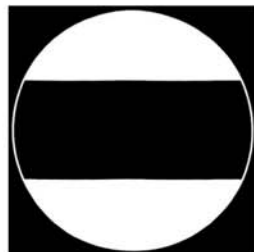
武家の本流 清和源氏

源氏は21系統に分かれており、その中で最も栄えた武家の本流ともいえるのが清和天皇の孫、源経基にはじまる清和源氏です。清和源氏の子孫は各地で繁栄し、それぞれの土地の名を冠して美濃源氏、河内源氏、甲斐源氏などと呼ばれるようになり、そこからさらに系統が分かれ多くの武家が生まれていくことになります。

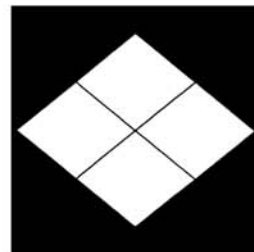
豊岡藩主を務めた京極氏の祖である佐々木氏は、宇多天皇の流れを汲む宇多源氏と呼ばれる系統で、清和源氏とは流れが異なります。



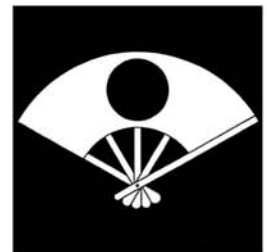
足利氏（河内源氏）
→足利二つ引



新田氏（河内源氏）
→新田一つ引（大中黒）



武田氏（甲斐源氏）
→武田菱



佐竹氏（常陸源氏）
→佐竹扇

守護大名山名氏の家紋

家紋が急激に広まった室町時代、山名氏が豊岡の地を治めていました。山名氏は河内源氏新田氏の氏族で、初代尊氏の時代から足利家に仕え山陰地方で大きな勢力をもった有力な守護大名です。

「五七桐七葉根笹」は、足利家より賜った「五七桐」に根のついた笹を2つつけてアレンジしたものと思われます。笹をつけた理由として2つの説があります。明徳の乱（1391年）の際に敵味方をはっきり区別するために、京都五条大橋の下に流れていた笹の葉を旗印として、その笹の印を家紋にもあしらったという説。もう1つは室町幕府の将軍足利義満より、「笹造り太刀」を賜りそれに由来するというものです。

「糸輪に二つ引」については、もともと使っていた三つ引が、武家の三浦氏の紋とまぎらわしく、また「三」つ引の「山」名家は「さんざん（散々）」と通じることから、二つ引に改めたという説があります。



五七桐七葉根笹



糸輪に二つ引

● 殿様の家紋

江戸時代になると武家同士の大きな争いはなくなり、合戦における敵味方の区別のように家紋の実用的な役割は小さくなっていき、次第に儀礼的な目的で使われるようになりました。江戸期の大名には家格に応じて礼儀作法などが厳しく定められており、相手に合わせた作法をその家紋によって判断していました。したがって各藩の藩主を務めた大名家の調度品や武具には、家紋があしらわれたものが数多くあります。

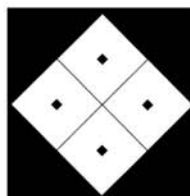
じょうもん かえもん 「定紋」と「替紋」

家紋は一家に一つとは限りません。主君から賜ったり、他家から譲り受けたりして、複数の家紋をもつ大名家は多くあります。江戸時代、幕府はその家を代表する公式の家紋を一つ届け出ることを義務付けました。そして、参勤交代の道中や江戸城への登城の際には、服装に必ず公式の家紋をつけることを命じ、その紋で各家を判別していました。このように、幕府に届け出た公式の紋を「定紋」（表紋、本紋）と呼び、定紋以外の非公式な紋を「替紋」（裏紋、副紋）と呼び区別されるようになりました。替紋はお忍びでの外出など、主に私的な場面で使用されていたようです。

豊岡藩主京極氏の家紋

四つ目結紋は、宇多源氏の流れを汲む佐々木氏が用いた紋です。京極氏は佐々木氏から派生した武家であり、家紋もその流れを汲んでいるものと思われます。四国の丸亀藩主を務めた京極本家は「平四つ目結」を使用しており、分家筋にあたる豊岡京極家は本家をはばかって「隅立て四つ目結」を用いるようになりました。

「雪輪なすなに薺」は、室町時代管領（室町幕府で将軍を補佐する職）を務めていた畠山氏から贈与されたものと伝えられています。薺は冬に花を咲かせるその生命力の強さから、家紋の図案になったと考えられています。



定紋：隅立て四つ目結



替紋：雪輪に薺



京極家刀筒、脇差筒

出石藩主仙石氏の家紋

「永楽銭」は、織田信長から下賜された紋です。銭の紋は冥銭、三途の川の渡し賃として認識され、戦場での死を覚悟していることを表しました。戦国時代に永楽通宝を流通させ、貨幣経済を重視した信長らしい紋ともいえます。

「丸に無文字」は初代秀久の旗紋から転用された紋です。禅宗の思想に基づいたもので、無欲無心でものごとに取り組むという意味が込められています。信長も無の字を使用しており、永楽銭紋と同様に信長から与えられたものと考えられます。



定紋：永楽銭

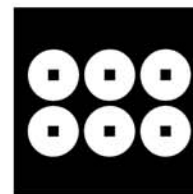


替紋：丸に無文字



仙石秀久肖像画

例. 真田家



定紋：六連銭



替紋：結び雁金



替紋：洲浜

「見聞諸家紋」

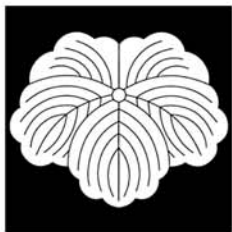
「見聞諸家紋」は応仁の乱が勃発したころ（1460～1470年頃）に成立したとされ、室町幕府8代将軍足利義政が治めていた時代の将軍家、守護大名から地方の土着武士まで、約300家260の家紋を掲載した日本最古の家紋集です。原本は残されていませんが、何冊かの写本が現在まで伝えられており、今回展示しているのは「群書類従」に収録されているものです。

※「群書類従」…江戸時代の国学者、塙保己一が編纂した、古代から江戸時代初期までの日本の文学作品や歴史書をおさめた書物。



家紋の種類

家紋は継承や贈与、下賜されることによって変形していきませんが、変形の仕方にはある種の法則性があります。元となる家紋に対し、何かを付け加えたり、形を変化させたりといくつかの加工のパターンが存在します。



鶯
(元の紋)



丸に鶯
(丸で囲む)



鬼鶯
(葉の縁をギザギザに変化)



陰鶯
(陰と陽を反転させる)

おわりに

家紋は、現在では日常に必要不可欠なものではないかもしれませんが、ほとんどの家には先祖から受け継がれてきた独自の紋があります。たとえ同じ紋を使う家が多くあっても、それぞれに由来があったはずで、今回の展示で家紋について知ることで、自分の家の紋にも興味をもっていただき、後の世代へ大切に伝えていくきっかけになれば幸いです。

お知らせ

■講演会「家紋って何?～その起こりと歴史をたどる～」

日 時：6月23日(日) 午後1時30分～3時

講 師：田中 豊茂氏(日本家紋研究会理事、
ウェブサイト 家紋 World 主宰)

会 場：豊岡市立歴史博物館 総合学習室

*聴講には入館料が必要です。予約は不要。
*講演後に当館学芸員による展示解説があります。

■体験教室「家紋の消しゴムハンコを作ろう！」

日 時：8月4日(日) 午後1時30分～

会 場：豊岡市立歴史博物館 総合学習室

参加費：100円

定 員：10名(先着順) 申込先：0796-42-6111

*刃物を使いますので、小さいお子様は大人の方とご参加下さい

他にも事業があります。詳細はホームページで。

ご利用案内

■開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

■休 館 日 水曜日(5/1(水)は開館し、5/7(火)を休館とします。)
年末年始(12月28日～1月4日)

■入 館 料 一 般 500(400)円
高 校 生 200(150)円
小中学生 150(100)円
*()は20名様以上の団体料金
* 県内小中学生は無料(ココロカードを提示してください)
* 65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方は半額

■最新情報はホームページをご覧ください。

<http://www3.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>

■facebook ページ公開中!

<http://www.facebook.com/tajima.kokubunjikan>

